

用語解説

*1 新市建設計画 [P.1]

法定の合併協議会が、合併後のまちづくりの方針を明確にするとともに、新市や県が実施する事業などを内容として策定する計画。合併をするかどうかの判断材料となるとともに、合併後の新市総合計画の策定に活用されることとなる。

*2 新市総合計画 [P.1]

新市が総合的かつ計画的な行政運営を図るために策定する計画。計画の策定あたっては、議会の議決を必要とし、これに即して行政運営を行うようにしなければならない。

*3 新産業 [P.2/6/7]

IT、バイオテクノロジー、ロボット等の先端技術産業、健康、福祉、環境等の生活産業などのこと。

*4 都市内分権 [P.2]

身近な地域ごとに一定の予算や権限を配分し、地域固有の課題への対応やまちづくりなどに市民が主体的に関わることができる仕組み。

*5 地域自治区 [P.2/5]

住民自治の強化等を推進する観点から、一定の区域を単位とし設置することができる。地域住民の意見を反映するため、住民等で構成する地域協議会を設置し、その地域自治区に関わる市の事務について市長に意見を述べることなどができる。

*6 N P O [P.2/3/7/8]

Non-Profit Organization の略で、「非営利団体」を指し、社会的な使命（ミッション）の実現を目指して活動する組織や団体のこと。なお、「非営利」というのは利益を上げてはいけないという意味ではなく、「利益があがっても構成員に分配しないで、団体の活動目的を達成するための費用に充てる」という意味である。またボランティアとの違いは、ボランティアが、「個人が個人の責任の範囲で活動を行う」のに対し、NPO は、「目的達成のために運営のルールを持ち、組織的、継続的に活動を行う」といったところにある。

*7 自治基本条例 [P.2]

その地域における自治の基本原則や行政の基本ルールなどが定められるもので、自治体の最高法規として位置付けられる。分権型社会の実現に向けて、地域のまちづくりの基本理念や、行政運営の基本原則、住民と行政とのそれぞれの役割と責務、市民参加のあり方と協働の仕組みなどを定めることが想定される。

*8 団塊の世代 [P.3/10]

第二次大戦直後数年間のベビーブーム時に生まれた世代で、概ね 1947 年(昭和 22 年)から 1949 年(昭和 24 年)までの 3 年間に生まれた人たちを指す。この 3 年間の出生数は約 806 万人といわれており、2000 年(平成 12 年)から 2002 年(平成 14 年)の出生数、約 352 万人の実に 2.3 倍となる。この世代を、堺屋太一(作家、元経済企画庁長官)が「団塊の世代」と名付けた。

*9 パブリックコメント [P.3]

行政機関が政策の立案又は改廃等にあたり、その案を公表し、広く住民から意見等を提出する機会を設け、提出された意見・情報を考慮して意思決定を行う手続のこと。

*10 コミュニティバス [P.4]

地域社会における交通問題の改善をはかるため、行政もしくは民間事業者が関係する機関・住民などとの連携等により、民間単独の路線バスとしては成立しない低需要区間や狭隘な地区のバスの運行や、中心市街地活性化を図るための都心交通など、公共交通不便地域の解消、利便性向上を目的とする路面公共交通システムの通称のこと。

*11 循環型社会 [P.5/6]

廃棄物等の発生を抑制し、廃棄物等のうち有用なものを循環資源として利用し、適正な廃棄物の処理をすることで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

*12 (仮称)水源環境保全税 [P.6]

森林の水源涵養(かんよう)能力の保持、荒廃林の整備など、水源環境を保全・管理するために、費用の一部を水の受益者が負担するといった考えに基づく税のこと。

*13 里山 [P.6-8]

もともとは、薪や肥料などの採取地となってきた平地や低山の林など、人里に接した小山を指しているが、近年は、「農山村の原風景」の代名詞として使われることが多い。

*14 スローライフ [P.6]

効率ばかりを優先した毎日を送る中で忘れてしまった「実感すること」を大切にした生活を取り戻すために、自分のペースで時間を楽しむことや、人と人のつながり、心とものつながりを大切にするといった、心豊かな生活をゆったりと送ること。

*15 グリーンツーリズム [P.6/7]

緑豊かな農山漁村地域において、その土地の自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動のこと。

*16 スポーツコンプレックス [P.7]

複合運動施設のこと。

*17 陸稲 [P.8]

畑地で栽培(さいばい)する稲で、「おかぼ」「畑稲」「早稲」「陸穂」とも呼ばれる。病気などに強く、手間がかからないのが特徴であるが、水稻にくらべて収量ははるかに少なく、食味に劣るが多い。

*18 建ぺい率 [P.8]

建物の敷地面積に対する建築面積の割合のこと。

*19 容積率 [P.8]

建物の延べ面積の敷地面積に対する割合のこと。

*20 ゾーニング [P.9]

ここでは、地域内を、土地利用形態や特性、あるいは新たな意味づけによって、いくつかのゾーンに区分けることを指す。

*21 アイデンティティ [P.10]

「自分が自分である」という明確な意識を持つ状態のこと。ここでは「他地域とは異なる、まさに藤野町地域そのもの」といった意味である。

*22 フィルムコミッション [P.10]

映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるため、映像製作者と地元関係機関との調整を行うほか、エキストラの手配、各種の許認可申請を支援し、映像製作者をサポートすること。地域経済、観光振興に大きな効果をもたらす。

*23 今西祐行 [P.10]

いまにしすけゆき(1923年 - 2004年)。大阪府生まれ。「肥後の石工」や広島への原爆投下など戦争を題材にした作品で知られる児童文学作家。「農業こそ人間を育てる」と、藤野町に私設の「菅井農業小学校」を開設(1987年)。都会と地元の子供たちの交流を図る活動など、農業を軸に様々な活動を行った。

*24 ドメスティック・バイオレンス(DV) [P.11]

配偶者や恋人など親密な関係にある(あった)者に対して身体的・性的・心理的攻撃を含む暴力を繰り返しふるうことで、

- 1) 身体的暴力 (殴る、蹴る など)
- 2) 精神的暴力 (脅す、ののしる、卑下する、無視する など)
- 3) 経済的暴力 (生活費を入れない、借金を重ねる など)
- 4) 社会的暴力 (手紙・電話の監視、行動の監視・制限、親兄弟・友人との付き合いを禁じる、就労の妨害 など)
- 5) 性的暴力 (強要、暴力的、避妊に非協力、浮気 など)

などに分けられている。